

国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈報告〉台湾の日本語教育における漢字学習

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 林, 立萍 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000938

台湾の日本語教育における漢字学習

林立萍

今日、報告するテーマは、「台湾の日本語教育における漢字学習」についてです。今日の報告は、大きく三つに分けられます。まずは、漢字を母語で用いている台湾の日本語教育事情について簡単に紹介します。次に、台湾の日本語学習者がどのように日本語の漢字を学び、日

本語の漢字とどう向き合うかについて触れます。最後は、自分の経験からえた日本語の漢字教育の課題や学習法についての提案を述べていきたいと思います。

一・台湾の日本語教育事情

現在の日本語教育事情をいうとき、時間の流れから見ると大きく三つの時期に分けられると思います(図1)。第一期目は、「国語」として推進されていた日本語教育です。皆さんもご存知のように、

①「国語」として推進されていた日本語教育

日清戦争の結果、台湾は日本に割譲されその植民地となり、明治28(1895)年から約51年間、日本の教育制度が持ち込まれ、初等教育を中心に国語としての日本語教育が行われていた。日本語は「国語」として強制的にその普及が推進された。

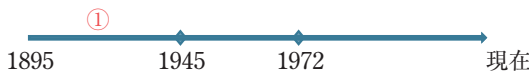


図1 台湾の日本語教育事情

日清戦争の結果、台湾は日本に割譲され、その植民地となり、明治二十八(一八九五)年から約五十一年間、日本の教育制度が持ち込まれ、初等教育を中心に国語としての日本語教育が行われていました。日本語は「国語」として強制的にその普及は推進されました。そのため、現在の台湾には母語のように日本語を話すことができる年配の方もけっこういます。

第二期は、いわゆる「外国語」として厳禁されていた日本語教育です。これは昭和二十(一九四五)年の太平洋戦争の終戦を境に、台湾は中華民国に祖国復帰し、新たな「国語」を北京語に定め、日本語の使用を禁止しました。そして、一九六三年に私立中国文化大学に高等教育機関として戦後初の日本語学科が設置されました。それに伴い、公的な日本語の学習は日本語学科のある大学に限られるよ



林立萍(りんりっぺい)

台湾大学教授。名古屋大学大学院文学研究科博士(文学)。専門は、日本語語彙、漢字情報処理。著書は『『大漢語林』による統合漢字の比較語彙論的研究序説そのための基礎研究-』(凱輪出版社、2005年)、『国際日本学研究所の最前線に向けて流行・ことば・物語の力』(編著、台湾大学出版中心、2013年)、『日本昔話語彙の研究』(台湾大学出版中心、2014年)。

うになりました。ただし、その後、日本との国交断絶（一九七二年）によって、日本語学科の増設もいっさい許可されなくなりました。私立中国文化大学の日本語学科は当時、唯一の公的な日本語の学習機関となりました。この時期の日本語教育は、前期と対照的に、ある意味では厳禁されているのではないかと、私は考えています。

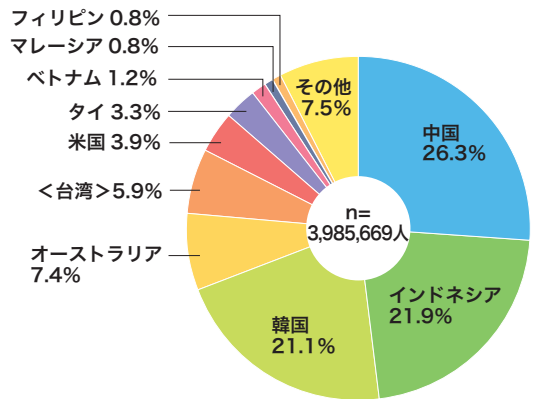
第三期は、「外国語」として推奨されている日本語教育です。状況がちよつとかわつてきて、ここ十数年来、日本語は学習ブームとなり、一つの専攻として学科が設立されている高等教育機関が雨後のたけのこのように数多く出現しました。それ以外の各大学でも第二外国語として履修者数が年々増加し、かなり歓迎されています。たとえば、私の勤務校の台湾大学では、学部生は約二万五千人在籍し、その中の五分の一の学生が日本語を勉強しています。

一方、中等教育機関では、一九九七年に日本の文部省に相当する台湾の教育部が、中等教育における第二外国語三年計画を開始したのに伴って、中学校や高等学校などでも日本語のクラスが開講されるようになりました。初等教育では、ごくわずかですが、日本語を必修科目として日本語教育を導入している機関も存在しています。

この時期では、その前の厳禁という学習状況ではなくて、むしろ推奨に一変したと考えられるのではないのでしょうか。

ここで、台湾の日本語学習者数についてみてみます。図2は、国際交流基金による二〇一二年度調査の結果ですが、台湾の学習者数はお

各国・<地域>別日本語学習者数の割合



2012年 順位	国・<地域>	学習者(人) 2012年
1	中国	1,046,490
2	インドネシア	872,411
3	韓国	840,187
4	オーストラリア	296,672
5	<台湾>	233,417
6	米国	155,939
7	タイ	129,616
8	ベトナム	46,762
9	マレーシア	33,077
10	フィリピン	32,418

図2 台湾の学習者数
 (『2012年度日本語教育機関調査結果概要 抜粋』
 (国際交流基金))

よそ二十三万人です。台湾の人口はいま二千三百万人ほどですので、約一パーセントとなっています。つまり、一〇〇人に一人が日本語を学んでいます。

また、当時は日本語の学習者は世界全体で三百九十八万人ほどです。台湾の学習者の割合は約五・九パーセントと、調査地域百三十六か国のなかで第五位となりました。台湾では日本語学習者の中でもっとも多いのは、高等教育機関で十二万人いたそうです。

また、国際交流基金のウェブサイトによると、二〇一〇年度の日本語能力試験の受験者は約五万四千人を数えており、台湾の総人口約二千三百万人に占める割合で見ると、その数は世界最高水準にあるといえます。

二・台湾の日本語学習者の日本語の漢字との向き合い方

さきほど申し上げましたように、台湾では学習者のなかで一番数が多いのは高等教育機関です。日本語学科または選択科目、第二外国語として日本語を取り入れている高等教育機関は、現在では約百六十五機関で、全高等教育機関(百七十五機関)のうち約九四・三パーセントの機関で日本語教育が実施されていることとなります。そのうち、日本語が主専攻の学科を有している学校は四十三機関を数えています。現在の段階で私の知っている限りでは、どこも漢字学習

【作答方法】 請聽完日文後完成句子。

- 1 納豆を食べるときは、砂糖だけではなく_____のですよ。
- 2 車で行きたいんです。でも、_____し、駐車場も少ないし…。やっぱり電車で行くわ。
- 3 _____も今大学に通っています。
- 4 _____ね。クーラーを付けましょうか。
- 5 この写真は、_____物です。いいでしょう。
- 6 夏はやっぱ_____だね。
- 7 吉田さんは_____に住んでいますよ。
- 8 質問があったら_____てくださいね。
- 9 今度のテストは、_____でしたよ。
- 10 私たち人間は、生活しているだけで_____います。

図3 1回目の書き取りテスト調査票

を一つの科目としてカリキュラムに組み入れていません。つまり、漢字をわれわれはすでに母語のようには使っていることから、別に習わなくてもよいということではないかと私は見えています。日本語の漢字学習は、学習者に任せるといった状態であるといっても過言ではありません。台湾の漢字に対する

る学習状態はこのようなものですが、では台湾の学習者は漢字に対してどのような意識を持っているのか、一つの試みとして、今年六月に、
① 中国語母語の漢字知識に影響させる漢字表記を多用しているのか、
② 漢字表記を使用する場合は、繁体字を使う、つまり、私たちが母語に使っている繁体字を使用する傾向がどうか、
について調査してみました。

調査は、私の勤務校の日本語学科の学生や大学院生九十五名を対象にテストを実施してみました。内訳は、上級(学習歴三年以上)学習者二十四名、中級(学習歴一〜四年)学習者三十七名、初級(学習歴一年未満)学習者三十四名です。調査方法は、書き取りテストです。

まず、調査票を図3のように作成しました。私は受験者に、この調査票を渡して、私が「納豆を食べるときは、砂糖だけでなく醤油も入れるんですよ」と音声を提示して、学習者に穴埋めのかたちでやってみようテストです。その穴埋めの「醤油も入れる」という部分には、漢字でなければいけないという制限はなくて、平仮名でも片仮名でも構いません。つまり、日本語を聞いて文字表記するとき、漢字を多く使うかどうかといった傾向、意識を知りたいということです。全部で十問あります。

そして、二回目は同じような内容ですが、今回は穴埋め式ではなく、選択式の調査になります(図4)。やはり私が「納豆を食べるときは、砂糖だけでなく醤油も入れるのですよ」と読み上げ、「ししょう」の漢字を三つのなかから選択させるようにします。ここでは、「正しいかどうか」という問題ではなく、直感的にやってみてください」という指示を出し

ました。

結果を図5のようにまとめてみました。一回目の手書きテストの結果は、薄い青の線です。濃い青の線は、平仮名を書いた人の数です。このような傾向を見ていくと、十問のなかで平仮名より漢字を書く傾向が多いことがわかりました。もちろん、漢字が正しく書けるかどうかという問題ではなくて、ただ、漢字を使うかどうかという傾向です。また、二回目のテストの選択式になると、漢字表記をさらに多く使う傾向が強くなるのがわかりました(図5)。つまり、漢字はやっぱり日本語では使うというような意識があると考えられます。

【作答方法】 請聽完日文後完成句子。

- 1 納豆を食べるときは、砂糖だけではなく____油も入れるのですよ。
① 醬 ② 醬 ③ しょう
- 2 車で行きたいんです。でも、道が____んでいるし、駐車場も少ないし…。
やっぱり電車でいきますわ。
① 混 ② 込 ③ こ
- 3 兄も____も今大学に通っています。
① 姐 ② 姉 ③ あね
- 4 ____いですね。クーラーを付けましょうか。
① 暑 ② 熱 ③ あつ
- 5 この写真は、____から撮った物です。いいでしょう。
① 窓 ② 窓 ③ まど
- 6 夏はやっぱ____が一番だね。
① 水 ② 氷 ③ こおり
- 7 吉田さんはわたしの____に住んでいますよ。
① 隣 ② 鄰 ③ となり
- 8 質問があったら手を____げてくださいね。
① 舉 ② 舉 ③ あ
- 9 今度のテストは、____でしたよ。
① 單 ② 單 ③ たん
- 10 私たち人間は、生活しているだけで水を____しています。
① 汚 ② 汚 ③ よご

図4 2回目の書き取りテスト調査票

次は、漢字を使うとき、自分の母語で使う繁体字を使うのか、日本語の漢字を使うのかという傾向も調べてみました(図6)。詳しく見ていくと、手書きの場合は、必ずしも繁体字を使用する傾向があるとは限りません。この傾向は、あらかじめ漢字を用意してある選択式になるとさらに高くなるのがわかりました。つまり、学習者に日本語の漢字が自分のなじみのある繁体字と違い、日本語を読み書きする際に、日本語の漢字を使用するという意識があると考えられます。ただし、日本語では繁体字と違った文字を使っているという意識があるとはいえますが、詳しくその調査票を見ていくと、誤字もけっこう見受けられます(図7)。たとえば、兄、姉というようなところです。日本語の姉ではなくて、われわれが台湾で使っている「あね」という漢字です。あるいは、7の「隣」のところですが、日本語の場合はごとと偏は左にあります。台湾で使っている繁体字では右にあります。このように、うっかりして母語の漢字を使ってしまうような例もいくつか見られました。

三、漢字教育の問題点や学習法の提案について

このような現象に対して、どのように対応したらよいのか、私は漢字教育の問題点や学習法の提案について少し考えてみました。

台湾は漢字を母語に用いるといえますが、繁体字は日本の常用漢字と微妙に異なっています。台湾で使用する漢字のうち、たとえば、「台湾」は「臺灣」と書かなければならないのですが、日本の新字体に相当する略字は、公的に認知されていますが多くありません。その大半は

旧字体に相当する、いわゆる「繁体字」です。

似ていますが、形が微妙に異なっています。

もし、日本語の漢字を学ぼうとすれば、そのような細かいところ、微妙に異なっているところに気を使って学んでいけば、たぶん、さきほどのような誤用、あるいは誤写がなくなるのではないかと思います。ですから、その異なり方とどのようになっているのかということを少し整理してみました。

先に答えというか結果をだしてみると、**図8**のようになります。つまり、台湾で使っている繁体字と日本の常用漢字との対応関係について、おおまかに整理すると**図8**のようになります。ただ最終結果ではありませんが、このような方向に向かって整理していけば誤写、誤字はなくなるのではないかと考えているわけです。たとえば、「田中さんのアパートはどうですか」という質問に、**図9**は学習者の書いたものです。「駅を近いですが、狭くて、クーラーがない

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	暑	姉	姊	櫃	暑(熱) 姉(姐)	自(訓)
			姊			
旧字体	單舉學	姊	窗冰鄰汚	單舉學		
		姊	單舉學			
非常用漢字		醬	醬			結(音)

日本語の漢字が台湾の漢字でも見られるかどうかについては、大まかに表のように整理することができると考えられる。

図8 日本語の漢字と繁体字について

質問：田中さんのアパートはどうですか。

→ 暑^にと近いですが、狭くて、クーラーがないので、夏は熱^いです。

日本語：気温が著しく高い → 「暑い」

中国語：〔好熱〕〔很熱〕

日本語：温度が著しく高く感じられる → 「熱い」

図9

ので、夏に熱いです。「暑い」を「熱い」と書いています。日本語で気温が高いという場合は、「暑い」を使っています。われわれの学習者のなかには、けっこう母語の影響というか、自分のなじみのある漢字を使って表記する傾向がかなり見られます。つまり、日本語の「暑い」の意味を通して自分の母語で使っている漢字の「熱」という字に変換するというプロセスです(**図10**)。これは台湾の繁体字と日本の常用漢字との対応関係から見ると、おそらく一つのグループとしてピックアップすることができると思います。

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	暑	姉	姊	櫃	暑(熱) 姉(姐)	自(訓)
			姊			
旧字体	單舉學	姊	窗冰鄰汚	單舉學		
		姊	單舉學			
非常用漢字		醬	醬			結(音)

図10 日本語の漢字と繁体字について

Photo of imperial couple causes stir on Twitter
日本天皇伉儷玉照在推特上引發爭議

Taken by an ordinary citizen, the photograph captured the imperial couple smiling to the camera at JR Oyama Station in **Tochigi** Prefecture on May 22.

這張照片是5月22日在**櫛木**縣JR小田站由一名平民所拍攝，捕捉到天皇伉儷對著鏡頭微笑。

図 11

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	新字体	暑	姊	姊	暑(熱) 姊(姐)	自(訓)
		込 枳 働	窓 氷 隣 汚 單 举 学	窗 冰 鄰 污 單 舉 學	櫛	
旧字体	單 舉 學					
非常用漢字		醬	醬			結(音)

図 12 日本語の漢字と繁体字について

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	新字体	暑	姊	姊	暑(熱) 姊(姐)	自(訓)
		込 枳 働	窓 氷 隣 汚 單 举 学	窗 冰 鄰 污 單 舉 學	櫛	
旧字体	單 舉 學					
非常用漢字		醬	醬			結(音)

図 13 日本語の漢字と繁体字について

また、さきほどお見せした「姉」という字ですが、繁体字には「姊」の字はありません。しかし、理解するプロセスにおいては、訓をメディアにして台湾で使っている同じ概念の漢字「姐」を使ったりする現象が見られます。これも、台湾と日本の漢字の対応関係を一つのグループとしてグルーピングすることができないのではないかと思います(図8)。

もう一つ、図11は私がたまたま台湾の新聞で見た例ですが、英語の説明もはいつているので非常に対照しやすいですが、「櫛」は栃木県の

「枳」という意味です。じつは、台湾の新聞では日本の漢字を使うのではなくて、「櫛」このように同じような読み方ですが、字形はまったく違う字を使ってしまうという例です。おそらく、日本で作られた国字といったようなものは、台湾にはないため、どのように表記するのかという点、同音による書き換えというような現象もあるのではないかと思いますので、これも一つのグループとしてグルーピングすることができないのではないかと思います(図12)。

次の例です(図13)。繁体字には、たとえば、「窓」「氷」「隣」「汚」な

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	暑	姉	姊		暑(熱) 姉(姐)	自(訓)
		込 柄 働		櫃		
		窓 氷 隣 汚	窗 冰 鄰 污			
		單 拳 學	單 舉 學			
旧字体	單 舉 學					
非常用漢字		醬	醬			結(音)

図14 日本語の漢字と繁体字について

日本漢字	繁体字有	繁体字無	類形繁体字有	類音繁体字有	同義別繁体字	
常用漢字	暑	姉	姊		暑(熱) 姉(姐)	自(訓)
		込 柄 働		櫃		
		窓 氷 隣 汚	窗 冰 鄰 污			
		單 拳 學	單 舉 學			
旧字体	單 舉 學					
非常用漢字		醬	醬			結(音)

図15 日本語の漢字と繁体字について

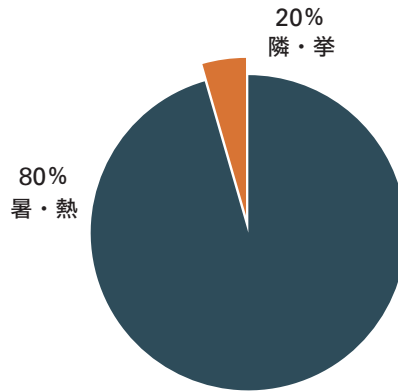


図16

どはありません。似ているものはあります。「隣」は、繁体字はこざと偏の位置が異なっています。このような例が結構あります。これも一つのグループにまとめることができたら、勉強するときには便利ではないかと思えます。

また、「単」「拳」「学」などは繁体字にもありません。昔の旧字体の「単」「舉」「學」は、現在の台湾では使っています。これはうっかりすると、日本の漢字として使ってしまうような傾向、現象も見られるのではないかと思ひ、一つのグループとしてまとめることができるので

はないでしょうか(図14)。

最後のグループは図15です。醤油の醬は、常用漢字にはいっていないというのですが、じつは日常生活のなかでも結構使われていますが、その場合はうっかりすると、台湾の使っている「醬」のような字形になってしまいます。日本の常用漢字と台湾で使っている漢字は、使ひ方、字形との類型関係から見ると、さまざまなタイプがあると考えられます。

もちろん各タイプの類型関係の割合は、いま調べているところ以最

最終結果をご報告することはできないのですが、だいたい常用漢字からみると八〇パーセントくらいは日本の常用漢字と似ている、一致していることがわかります(図16)。ただし、詳しく見ると、さきほど申し上げましたように、「暑い」を台湾で使っている「熱」に書き換える例ももちろんあります。詳しい分析は、機会があれば今後やっていきたいと思いますが、結果としては、台湾で使っている日本の常用漢字は約八〇パーセントあります。残り二〇パーセントほどは、台湾ではあまり見られませんが、ですから、集中的にこの二〇パーセントを先に勉

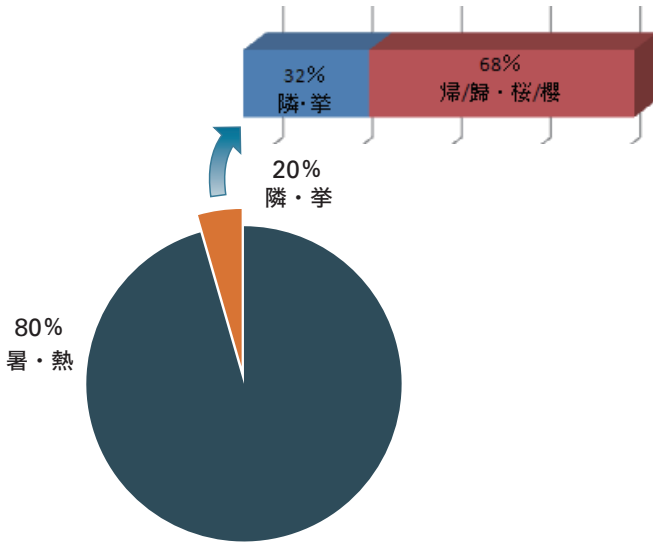


図17

強して身につけていけば効率的ではないかと思っています。

また、二〇パーセントのなかに、さきほどの「隣」のように、微妙に字形が違っているのですが、意味が同じようなものは三割くらいしかありません。残りの六割、七割近くは、だいたい新旧時代の漢字になります(図17)。

このように整理していくと、日本の漢字は、漢字を母語に用いる台湾の学習者にとっては必ずしもなじまないものではありません。ただ、さきほどご報告したように、微妙に異なっています。そのため、うっかりすると、変な間

違いが起こりうる可能性があります。もし、学習や指導をする際に、両者の相違点に十分に留意すれば、さきほどのような誤りはかなり防げると考えられるのではないかと、思います。

以上で私の報告を終わります。ご清聴どうもありがとうございました。

